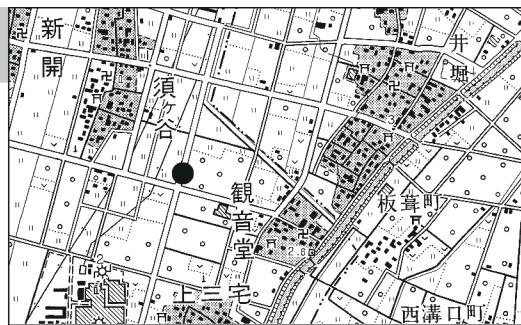


にしきいづか 西海塚遺跡

所 在 地 稲沢市平和町
(北緯35度13分36秒 東経136度45分12秒)
調 査 理 由 県道津島稻沢線道路改築
調 査 期 間 平成17年11月～平成18年3月
調 査 面 積 461m²
担 当 者 石黒立人・加藤博紀・永井邦仁



調査の経過 本遺跡の発掘調査は、県道津島稻沢線道路改築に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成17年11月から18年3月にかけて須ヶ谷遺跡・山王遺跡とともに実施した。調査面積は461m²である。

立地と環境 本遺跡は、稲沢市平和町に所在し、三宅川やそれに先行する河道によって形成された微高地上に位置する。近隣には、弥生時代前期の野口・北出遺跡や同時代中期の一色青海遺跡、奈良時代の寺院跡の三宅廃寺などがある。

調査の概要 昭和40年以降に実施された土地区画整理事業によって行われた盛土などの表土を約30cm除去すると、検出面が現れる。遺跡の南北にある検出面の落込みは、昭和40年以前の水田によると思われる。それは、明治期に作成された地籍図においても確認できる。そして、検出される遺構は、A・B区ともに溝、土坑など多数あるが、遺物はきわめて少ない。これらの遺構は、どれも近世後期から現代までの耕作に伴うものと思われる。また、深堀調査によって、見かけ上、北から南へ河川の縁辺部が次第に移動していく、いわゆる側方付加堆積物の断面が確認された。山王遺跡A区において確認できた自然流路によるものと思われる。

(加藤博紀)



北から西海塚遺跡・山王遺跡を望む